

(様式 1)

令和 8 年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立中川小学校
校長名	三ヶ島 誠一郎

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
・学年の状況では調査を行った全学年で全教科、全国値を上回った。経年比較による同一集団の成長をみても、同等あるいは上昇している。 ・5年算数、理科、社会、国語、3年算数、2年算数、国語では区の平均に到達しなかった。 ・全学年、全教科で「基礎・活用」、「領域」「観点」の全項目での目標値を上回ることができた。授業の中で、めあてやまとめ・振り返りのはっきりした授業展開を行うことが児童の主体性を生かし、力を伸ばす結果につながった。	・学年全体の傾向として、「活用」や「思考・判断・表現」の観点の数値が低くなる傾向がある。基礎的な分野の定着を図り、活用の力をさらに伸ばすことや知識・技能の定着から思考・判断・表現の力を伸ばすことが課題である。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
・全学年で「学級の規範意識」「対人ストレス(の少なさ)」「生活習慣」は全国値を2ポイント以上、上回った。「学習意欲」も全学年で全国値を上回った。規律正しい授業環境や生活習慣を整えたことが、学習意欲の向上にもよい効果を生み出したと考えられる。	・全体的に、肯定的な回答が多い。しかし、その肯定的な回答の割合は、19項目中13～19項目(全項目)と学年によって開きがある。特に「学習習慣」については5学年中2学年が標準値に達しなかった。家庭の協力を今後も仰いでいく必要がある。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果					課 題																				
<table border="1"><thead><tr><th></th><th>小 3</th><th>小 4</th><th>小 5</th><th>小 6</th></tr></thead><tbody><tr><td>平均正答率</td><td>86%</td><td>81%</td><td>69%</td><td>62%</td></tr><tr><td>満点割合</td><td>14%</td><td>13%</td><td>10%</td><td>0 %</td></tr><tr><td colspan="5">東京ベーシックドリル「診断シート」令和8年5月実施</td></tr></tbody></table>						小 3	小 4	小 5	小 6	平均正答率	86%	81%	69%	62%	満点割合	14%	13%	10%	0 %	東京ベーシックドリル「診断シート」令和8年5月実施					・ 5、6年生については、前年の学習内容の平均正答率 70%以上になるようにし、確実に身に付けさせる。 ・ 学年があがるにつれ、正答率が下がっている。学習内容が高度になることが理由の一つと考えられるが、「ミライシード」やふりかえりシートを活用し、習熟が十分でない分野について、着実に基礎基本の力を伸ばすことが課題である。 ・ 3年生の平均正答率は前年度の 84%より上
	小 3	小 4	小 5	小 6																					
平均正答率	86%	81%	69%	62%																					
満点割合	14%	13%	10%	0 %																					
東京ベーシックドリル「診断シート」令和8年5月実施																									
・ 前期（5月）に東京ベーシックドリル算数の診断シートを 3～6 年について実施した。全学年、1 学年前の診断シートを使用した。																									
・ 小 3、小 4 では平均正答率は、前年度と同等以																									

上の正答率を達成した。 ・小5、小6では平均正答率は前年度より下降した。	昇したが、今後の算数・数学の基礎となるものであることから、平均正答率90%以上を目指す。
--	---

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 基礎的・基本的な学習内容の定着

- ① 「中川学習スタンダード」をもとに授業規律を定着させる。めあてとまとめ（ふりかえり）は毎時間記載し、この時間で何を学ぶのか、どんな力を付けるのかをはっきりさせた授業を展開する。
- ② 基礎学力の向上を目指して本校独自の校内学力調査を年2回（4月と3月）実施する。学校独自の調査問題を作成し、基礎・基本の定着に向けた学力調査を実施し、定着度を検証していく。
- ③ 朝学習の時間（8：30～8：40）に、算数タイム（計算・文章問題プリント）、国語タイム（漢字・読解プリント）、読書タイムを毎週設定し、計画的に実施する。なお、高学年は算数タイム、国語タイムではなく、学習タイムとし、理科や社会科の学習にも取り組めるようにする。
- ④ 算数習熟度別指導の充実を図る。単元ごとにレディネステストを実施し、児童の実態に応じたクラス分けを行い、習熟度別指導の充実を図る。特に、基礎の定着を十分に行う必要がある児童に対しては、原則15人以下の少人数のクラスとし、個に応じた支援の充実を図る。
- ⑤ 理科の観察・実験を充実させ、実感を伴った学習を推進する。学習を通して実生活での生かし方を感じられるようにし、自然の事物・現象と知識・理解とを関連付けた指導を行う。学習の進め方や各学年の重点を掲示することで、思考の流れと課題解決を関連付けた学習を進める。実験や観察をしたことだけで帰結することがないように、その実験・観察から何が学べたのかまでしっかり身に付けられるように指導する。
- ⑥ 社会の学習では問題解決学習を充実させ、自分たちの設定した課題に対して主体的に学ぶ機会を増やす。また振り返りの場面をしっかりと行い、学習した内容の定着を行う。
- ⑦ 授業中や家庭学習において、「ふりかえりシート」や「ミライシード」、まるぐランド、よむYOMUワークシートや問題データベースを活用している。課題を分析し、内容によっては定期的にアウトプットの機会を設けることで基礎的な知識の確実な習得に力を入れる。

(2) 思考力・判断力・表現力を高める指導の工夫

- ① 校内研究を通して、教員の授業力向上を図り、「主体的・対話的で深い学び」に基づく授業改善を図る。研究主題『主体的に考え、表現し、ともに学び合う児童の育成 ～算数科における問題解決型学習を通して（A数と計算）～』を設定し、算数科を中心に各学年が授業研究を行い、教師一人一人の授業力を高め、児童の学力向上を図る。
- ② 理科や社会において、資料や実験結果、事象などから自分なりの考えをもち、タブレット端末のロイロノート等を活用しながら意見の共有や発表をし合う機会を意図的に授業に取り込んで

いく。根拠に基づいた話し合いを通して、知識をより確かなものにしながら、思考力・判断力・表現力を高める指導を行う。

- ③ 毎週の朝読書に加え、読書月間を実施し、読書の習慣を育て、想像力や語彙力を豊かにする。学校図書館司書を活用し、日常的に本に触れる機会を設け、「読み取る力」を育成する。「調べる学習コンクール」の期間と合わせ、特別コーナーを設けることでより作品作りへのイメージをもちやすくする。
- ④ タブレット端末を、あらゆる教育活動で活用する。GIGA支援員やICTリーダーによる研修を定期的に行ったり、活用例を共有したりして使用場面を拡大する。個に応じた学習の推進や、学び合いまた、自分の意見を発表するアウトプットの場面を日々の教育活動の中で意識的に増やしていく。

(3) 家庭学習習慣の確立

- ① 毎日、一定量の家庭学習課題を出し、学習習慣を確立させる。低・中学年においては保護者にチェックをお願いし、保護者に対しても家庭学習への意識をもたせ、児童と一緒に取り組むことで家庭での学習習慣を定着させる。
- ② 授業の学習内容については、宿題として単元の確認問題や「ふりかえりシート」、「ミライシード」等を繰り返し活用し定着を図る。宿題は、タブレット端末とノートを併用し、その内容にとって効果が高い方法を担任が考え組み合わせていく。翌日には必ず内容を確認し、習熟・理解ができていない児童については、個別に指導していく。家庭学習は国語・算数を中心に計画的に行い、中・高学年では、社会・理科を含め実施する。理科・社会の学習内容定着のために「問題データベース」も活用する。
- ③ 「早寝、早起き、朝ごはん」を家庭の協力のもと、指導することで、家庭での生活習慣を整え学習に向き合う態度を育てる。

3 「令和9年度 墨田区学習状況調査」における目標

(1) 目標

- ・全学年、全教科において、全国平均正答率より8ポイント以上高い成果を目指す。